きれい甲斐

No.80 MARCH 2018

環境パートナーシップやまなし

事務局●〒400-8501山梨県甲府市丸の内1丁目6-1山梨県森林環境総務課内
TEL.055-223-1657 FAX.055-223-1636 ✉sinkan-som@pref.yamanashi.lg.jp
ホームページ パートナーシップやまなし 検索
発行責任者●企画委員長 河 野 行 秀

環境パートナーシップやまなしは、県民・事業者・行政のパートナーシップ（協働）のもと、団体間の連携や情報交換の場づくりなどを通じて、自主的な環境保全活動を積極的に展開していくことを目的として様々な活動を行っています。
環境保全に関する活動を積極的に行っている団体、個人のみなさまのご入会をお待ちしています。

古紙配合率100%再生紙を使用しています

やまなし環境活動推進ネットワーク フォーラムを開催しました





環境パートナーシップやまなしは、２月１８日（日）に「やまなし環境活動推進ネットワークフォーラム」を公益財団法人やまなし環境財団との共催で開催しました。
当日は約１４０名の方々に参加していただき、午後１時から４時まで環境保全に向けた取り組みについて活発な情報交換がなされました。
前半では、環境保全に向けた活動を実践している２団体から日頃の活動内容について発表していただきました。

《リレートークによる活動報告》

富士山アウトドアミュージアム

「富士山のよろず承り〼 ～富士山は屋根のない博物館～」

“富士山アウトドアミュージアム”からは、親子キャンプ、ふじさんのごみひろい、富士山麓ロードキル撲滅プロジェクト等、団体の活動内容を発表していただきました。野生動物の交通事故は、動物の被害だけでなく人間にも多大なダメージを与える社会問題となっており、富士山麓ロードキル調査活動の調査結果や、地元高校・企業による活動支援の紹介がありました。また、スタッフの人件費確保など、団体が抱える課題についてもお話しいただきました。生活圏と自然が密接した富士山というエリアを、観光で訪れる国内外の方にもっと楽しんでもらうため、今後も柔軟性のある活動を行っていきたいとのことです。

山梨県自然保護教育振興会

「山梨県自然保護教育振興会の活動45年の歴史を振り返り今後のあり方を考える」

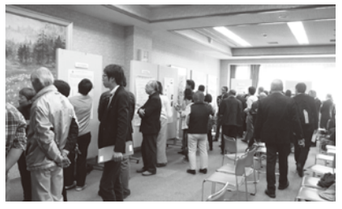
“山梨県自然保護教育振興会”からは、「活動４５年の歴史を振り返り今後のあり方を考える」と題して、これまでの活動の軌跡や、今後の自然保護活動のあり方について発表していただきました。時代の変化に伴い、教育現場は遺伝子学、DNAの学習やITにシフトしているが、それ以上に水や空気、ふるさと、地球を守ることが重要であるとのお話をいただきました。 今後とも、環境関係諸団体や行政、企業等と協力し、ふるさと地球を後世につなげていきたいとのことです。

《ポスターセッションによる交流》

後半では、昨年度に引き続きポスターセッションを行い、若宮賞受賞者から宮川広氏、県環境保全功績者表彰団体からキヤノンファインテックニスカ(株)、やまなし環境財団助成団体から黒平自然の森学校、森野学校ぽんぽこ、たきびカフェ、高等学校から北杜市立甲陵高等学校、山梨英和高等学校が発表しました。
鳥屋尾運営委員にコーディネーターを務めていただき、各個人・団体の作成したポスターを基に、日頃の活動内容・課題・これからの展望などについて発表を行いました。
その後交流時間として、発表者と参加者相互の活発な情報交換を行い、参加者は付箋に書いたメッセージをポスターに貼り、発表者へ感想や応援の言葉を伝えました。

【ポスターセッション参加者】

- ◆若宮賞受賞者　宮川　広
- ◆県環境保全功績者表彰受賞団体
  キヤノンファインテックニスカ(株)
- ◆やまなし環境財団助成団体
  黒平自然の森学校、森野学校ぽんぽこ、たきびカフェ
- ◆高等学校　北杜市立甲陵高等学校、山梨英和高等学校



会員リレートーク Vol.40 公益社団法人 食品容器環境美化協会

【 食品容器環境美化協会について 】

日ごろ、多くの方にお茶やジュース等の飲料が飲まれています。その一方で、缶やPETボトル等のポイ捨ても大きな社会問題にもなっています。
飲料容器のポイ捨て・散乱防止を目的に飲料メーカーが集まり組織されたのが、食品容器環境美化協会（通称：食環協）です。
アダプト・プログラム、環境学習支援、散乱防止啓発など、様々な活動から環境美化の推進に努めています。

＊環境美化教育優良校等表彰事業＊

【 事業内容 】

環境美化に独創的、継続的かつ熱心に取り組み「公共の場所の美化」または「飲料あき容器等のリサイクル」を実践し、地域の美化に大きく寄与している小・中学校等を都道府県の推薦よって選出し、表彰する事業となります。山梨県森林環境部と協力し、推薦校を選出しております。
2017年度で18回目となり、今年度は 山中湖村立東小学校が「 優良校 協会会長賞 」を受賞しました。

- ●受賞団体 ： 山梨県 山中湖村立東小学校
- ●受　　賞 ： 優良校　協会会長賞
- ●活動内容 ： 多くの観光客が訪れる山中湖の近くにある同校では、30年以上も前から地域住民とともに湖畔に散乱している空き缶やPETボトル等の回収する清掃活動を行っています。また、集団登校時に清掃尾を行い、資源ごみの回収の実施等日常生活においても環境に配慮する児童が増え、住民の美化活動への関心も向上している事が受賞のきっかけとなりました。



児童と地域住民による湖畔清掃活動



優良校の表彰伝達式



受賞校の学校関係者関係・児童代表 山梨県関係者・食環協関係者

ホームページ 山梨県食品衛生協会 検索

お知らせ

「きれい甲斐」は、送付方法を①郵送、②メール配信、③県ホームページからダウンロードの3種類から選択できます。現在の送付方法から変更を希望される方は、事務局までご連絡ください。

環境パートナーシップやまなし事務局（県森林環境総務課内）
TEL:055-223-1657／FAX:055-223-1636　E-mail:sinkan-som@pref.yamanashi.lg.jp





ネットワークフォーラムの最後に、環境パートナーシップやまなしの企画委員である飯窪さかえ氏から、「皆さんの目が輝いており、セッションを一生懸命に聞いている姿から日頃の活動の様子がうかがえた。ネットワークフォーラムも２０回を迎え、時代がどのように変わろうとも、人と人のつながりを大切にした支え合う社会づくりが、環境や教育などいろんな分野の根本ではないかと思っている。熱心に課題の解決に取り組み、勉強をし、専門性を持った方がこの指止まれで、この一本の指の呼びかけで仲間が集まり、今日のような成果が出たのではないか。リーダー、仲間、問題意識の把握等が積み重なり続いてきた団体や新しい団体があること、高校生や若い人が、我々と違う視点で関心を持っていることが分かり感動した。各リーダーの専門性がいかに活用されるか、そして周りのボランタリーの気持ちが一つになって県の環境問題を前進させるエネルギーになっていく。やまなし環境財団のように県行政に支援体制があることは幸せなことであり、経済的な財源を活用しつつ、来年さらに進歩した活動と新たな視点をお聞かせいただきたい。」との講評をいただき、閉会となりました。

ネットワークフォーラムに参加していただいた方にアンケートを実施した結果、様々な団体の活動を知ることができて良かった、ポスターセッションでは昨年より発表者と参加者の交流がより深くとれて良かった、高校生の発表がとても良かったなどの回答をいただきました。

若宮賞表彰式・感謝状贈呈式・「やまなし環境美化推進ポスター・標語コンテスト」表彰式を行いました

やまなし環境活動推進ネットワークフォーラムの第１部では、公益財団法人やまなし環境財団が、優れた環境保全活動を行っている個人・団体を表彰し、また同財団に寄附をされた団体の方々へ感謝状を贈呈しました。また、ごみの散乱防止及び３Ｒによる環境美化を進めるため、県内の小中学校、高校を対象に山梨県が主催するポスター・標語コンテストの優秀賞受賞者を表彰しました。

【若宮賞被表彰者】

<個人>・河野芳樹　・宮川広　　**<団体>**・韮崎生活学校　・一般社団法人山梨県トラック協会

【感謝状被贈呈者】　・イオンリテール株式会社イオンスタイル甲府昭和

【平成29年度やまなし環境美化推進ポスター・標語コンテスト 優秀賞受賞者】

<小学校低学年の部>	富士吉田市立下吉田第二小学校	1年 古谷 絵梨果さん	（ポスター部門）
	山梨大学教育学部付属小学校	2年 山本 歩さん	（標語部門）
<小学校高学年の部>	甲府市千塚小学校	4年 鈴木 亜里沙さん	（ポスター部門）
	北杜市立長坂小学校	4年 中根 望知香さん	（標語部門）
<中学校の部>	甲州市立塩山中学校	3年 向山 可織さん	（ポスター部門）
	南アルプス市立櫛形中学校	2年 金丸 香凜さん	（標語部門）
<高等学校の部>	北杜高等学校	3年 宮澤 玲華さん	（ポスター部門）
	甲府商業高等学校	1年 木下 花さん	（標語部門）



若宮賞表彰式



感謝状贈呈式



ポスター・標語コンテスト表彰式

COLUMN コラム　萩原　智子



「もっと整ったところで練習出来たらいいのに。」若い頃に何度も考えてしまったことです。私は山梨県甲府市出身。東京や大阪など大都市と比べると田舎です。当時、施設も情報も遅れていたのは確かです。

私は小学2年生から水泳を始め、全国大会や合宿で他県へ出向くことが多くなりました。その度に、素晴らしい施設に圧倒され、その驚きと憧れは、いつの間にか心に嫉妬心を生み出し、逃げ場を作っていました。

記録が止まった時、自身への厳しい問いかけを忘れ、不調の原因を施設や道具など環境のせいにしてしまったのです。山梨県は田舎で、いい施設がない、物がない、情報が少ないと無い物ねだりを繰り返していた時期も。しかしそんな私の心を変化させてくれたのは指導者の存在でした。「山梨は田舎だ。でも無い物ねだりをするな。あるもので勝負するんだ。自分で考えて工夫するんだ。この環境で強くなれたら本物だ。タフになれるぞ。」と背中を押してくれました。

全てが整っていても強くなれないアスリートもいます。環境が整っていない田舎であっても新記録を更新するアスリートだって存在します。全ては気持ち次第。「こんな整っていない環境で頑張れない」と思うのか、それとも「この整っていない環境で頑張り抜くことが出来たら、必ずタフになれるんだ」と前向きに考えられるのかは、自分次第です。

スポーツを通じて、私は心身共にタフさを培い、工夫する楽しさを知り、様々な角度から考えられるようになりました。成長する機会を与えてくれた水泳、そして指導者に感謝の気持ちでいっぱいです。

Profile プロフィール

名　　前　萩原智子（はぎわら・ともこ）
生年月日　1980年4月13日
肩　　書　日本水泳連盟理事
出 身 地　山梨

出身校　山梨学院大学付属高等学校
山梨学院大学
山梨学院大学大学院

中学3年生時に、海外遠征カナダ選手権200m背泳ぎで、当時、日本歴代2位となる日本中学新記録樹立。
高校インターハイでは、200m背泳ぎで、3連覇達成。同年アジア競技大会では、個人、リレー種目で、3個の金メダルを獲得。
2000年シドニー五輪、200m背泳ぎ4位、200m個人メドレー8位入賞。2002年日本選手権では、100m、200m自由形、200m背泳ぎ、200m個人メドレーで史上初の4冠達成。「ハギトモ」の愛称で親しまれ、2004年現役引退。
5年の歳月を経て、2009年現役復帰宣言。復帰レースとなった新潟国民体育大会では大会新記録で優勝。
翌年2010年には、30歳にして日本代表に返り咲いた。同年、ワールドカップ東京大会で50m自由形、100m個人メドレーで、
短水路日本新記録を樹立。
2012年2月のJAPAN OPENでは、50m自由形で短水路日本記録を樹立。
2013年6月、日本水泳連盟理事に就任。
2015年、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員に就任。
現在は、テレビ・ラジオ出演や水泳の解説のほか、自ら現場に行って取材を行い、ライターとしても活動の幅を広げている。
メディア出演のほかにも、これまでの人生経験をもとに講演活動を行うほか、改めて、自身を育ててくれた「水」に感謝し、水泳教室はもとより、「水の大切さ」や「水の教育」にも取り組む水でエデュケーション・コミュニケーションする「水ケーション」の活動にも注力している。また山梨県、福島県、愛知県で水泳大会「萩原智子杯」も開催している。

●投稿募集中

【会員紹介コーナー】
①A5判程度で、原稿と写真等を入れて構成してください。②団体等の名称、所在地（事務局または事務所）、連絡先を必ずお書きください。③内容は、活動紹介やPRなど自由です。④締め切りは特にありません。

【行事予定】
○主催団体名、日時、場所、内容、申込み方法、連絡先等をお教えください。